

福岡市フェンシング協会

【設立年月日】

1967（昭42）年10月1日

【加盟年月日】

1968（昭43）年5月

【歴代会長】

1967（昭42）年～ 妹尾 憲 介

1988（昭63）年～ 石 橋 博

1995（平7）年～ 稲 員 大 三 郎

【歴代理事長】

1967（昭42）年～ 矢 野 昌 宏

2010（平22）年～ 野 元 伸 一 郎

2011（平23）年～ 金 丸 文 行

【設 立】

福岡県フェンシング協会の下部団体組織として、県協会加盟団体のうち福岡市内にある4つのクラブが集まり、1967（昭42）年10月に妹尾憲介（福岡市議会議員）を会長に、矢野昌宏（法政大OB）を理事長として福岡市フェンシング協会を設立し、1968（昭43）年福岡市体育協会に加盟しました。

1968（昭43）年10月の第23回国民体育大会秋季大会（福井県）への初参加を機に福岡市より毎年国体に出場しています。

1973（昭和48）年10月の第28回国民体育大会（千葉県）では成年男子フルーレ団体戦（監督/矢野昌宏、下垣内豊、別府康司（福大OB）辻繁雄、黒石清司（西南大OB））が第4位に入賞しました。これを機に協会は競技人口を拡大し、競技者の技能を高め、実践向上をいかに図るかを課題として、基本技術の習得及び練習を柱とした、クラブチームの充実と高校生の部員増加に力を注ぎました。

1975（昭50）年9月よりスポーツ教室を開設、毎週水、土曜日の午後6時より8時までの2時間の教

室でした。これにより、競技人口の増加と共に、普及と育成が一步一步着実に出来上がっていきました。

1986（昭和61）年4月に第45回国民体育大会が福岡に決定したことは本協会にとって普及の絶好のチャンスであると同時に大きな試練でもあると考えました。何れにしても協会の総力を挙げて「とびうめ国体」を成功させる責任がありました。競技を行う上では技を競い合う相手であっても、同じフェンシングを志す遠来の友を暖かく迎えるために、これからの活動を、根幹を支えるものとして協会の組織の再編を手掛け、理事を増員し、総務委員会、強化委員会、競技委員会の専門部による責任指導体制を確立しました。クラブ作りにも全力を注いだ結果、以前にも増して活発な活動が出来るようになり、底辺拡大についても初期の目標は達成出来ました。

1988（昭63）年に国体強化選手を決定し、指導には強化委員会の理事をあて、本格的な強化をスタートしました。基本技術の習得もさることながら、遠征による他県との合同練習や交流試合を積み上げ、実践力の強化に努めました。結果、とびうめ国体では男女総合4位、女子総合優勝という輝かしい成績を収めました。

1991（平3）年よりユニバーシアード福岡大会の準備がスタートしました。協会全員が一致団結して打ち合わせを重ね、1994（平6）年にはリハーサル大会として第3回アジア・ユース・カデット大会を開催、アジア地域から8ヶ国を集め、大成功のうちに終わりました。リハーサル大会終了後、ユニバーシ



アード福岡大会の成功に向け、本協会と日本フェンシング協会、及び連絡関係各位との綿密な打ち合わせを開始しました。本協会として初めての世界大会ということで、多くの問題、課題に向き合いながら、準備に取り組みました。8月23日から9月2日迄、福岡大学第2記念会堂に世界42ヶ国から選手・役員を迎え、大成功のうちに、無事終了することが出来ました。世界トップクラスのアスリートを目の前にしますと、やはり日本の選手層の薄さを感じさせられ、当大会を終えて、感じた大きな課題として選手の発掘・育成、それも小・中学生を対象にした早期育成が上げられました。そのためには多くのコーチング・スタッフの育成が先決となります。

【近年の活動】

本協会の競技活動の中心は社会人を柱とした成年男女、高校生を柱とした少年男女です。中でも少年の部においては、昭和40年代以降、団体・個人とも全国大会での優勝、上位入賞は数多く、全国でも有数の強豪として、名を馳せています。



又、発掘・育成に関しては、福岡県が全国に先駆け、2004（平16）年から開始したタレント発掘事業において、本協会も事業開始当初から連携をとり、カリキュラムにフェンシング指導を取り入れています。現在、このタレント出身者から6名が東京に居住を移し、ナショナル・トレーニングセンターで将来のオリンピック出場、メダル獲得を目指し、フェ

ンシングの英才教育を受けています。



このように、発掘・育成の環境は整いつつありますが、競技人口、指導者、練習環境に多くの課題を残しています。今後は、これらの課題を解決すべく、協会全員が一丸となってフェンシング競技の普及・向上に取り組んで行きたいと思っています。